



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

# 食を考えるハロウィン

## トラッシュ or トリート

未開封の食品を持ち寄る「ハロウィン・フードドライブキャンペーン 2022」(フリー・ザ・チルドレン・ジャパン・東京)が進行中だ。ハロウィンの合言葉 Trick or Treat (お菓子をちょうだい)を「食べものを分け合おう」に置き換え、Trash? or Treat? (ゴミ?それともごちそう?)が新しい合言葉だ。

フードドライブというのは、イベント会場や街角で、家庭などにある未開封の余剰食品を集め、経済的に困難を抱えている人々に食料の無料配布を行う団体に寄付する活動。10月は農林水産省・環境省・消費者庁が定める「食品ロス削減月間」、さらに国連の「国際食料デー月間」でもある。そこでハロウィンを楽しみながら、課題解決に向けたアクションに取り組むというイベントだ。去年は参加 150 人、食品 51.684kg が集まったという。

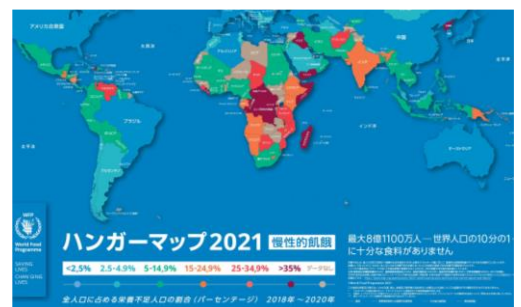
日本では年間 1,624 万トンの食品が廃棄され、このうち、まだ食べられるのに廃棄されている食品=食品ロスは 522 万トンにもものぼる。一方で 7 人に 1 人が相対的貧困状態といわれ、日々の食事に困難を抱えている人も増えている。もしこのフードロスの 10%を必要な人に届けることができれば、日本の子どもたちは皆、栄養のある一食をとることができるようになる計算だ。ハロウィンを楽しむ余裕に感謝して、少しずつ社会の問題にも向き合う機会だ。(共同通信社)



フードドライブの広告



フードドライブで集まった食品



ハンガーマップ

日本やシンガポールで生活していると食事に困ることはほとんどありませんし、まだ食べられる食材が廃棄されることも多くあります。その一方で、日本国内の中でも相対的に十分な食事を取れていない人たちもいるため、このような食を考えるハロウィンのイベントが実施されています。さらに、世界の食事について目を向けてみると、8億1100万人もの人たち慢性的な飢餓状態になっています。これは世界人口の10分の1以上になります。このように世界全体で見ても食料の配分は非常にアンバランスな状態となっています。飢えて苦しむ人たちに、手つかずのまま捨てられる食事を届けることができれば世界はもっと良くなると思います。まずは私たちが捨てる食品を減らすことで、食料の廃棄量を減らしたいですね。(依藤)